

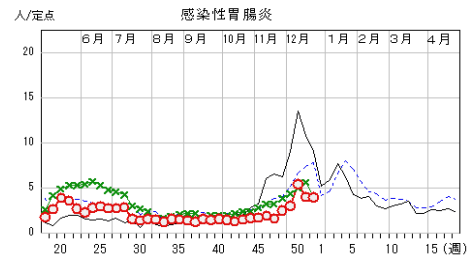
# 感染症情報発生動向調査速報

2022年第49週 2022年12月5日（月）～ 2022年12月11日（日） 2022年12月15日作成

## ☆定点報告疾患（定点当たり報告数の上位3疾患）の発生状況

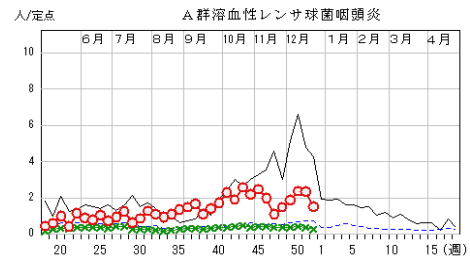
### (1) 感染性胃腸炎

第49週の報告数は132人で、前週より22人多く、定点当たりの報告数は3.00であった。  
 年齢別では、1歳（29人）、10～14歳（16人）、1歳未満（15人）の順に多かった。  
 定点当たり報告数の多い保健所は、県北保健所（6.67）、県央保健所（4.50）、長崎市保健所（3.90）であった。



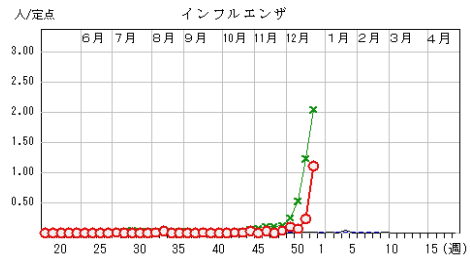
### (2) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

第49週の報告数は82人で、前週より17人多く、定点当たりの報告数は1.86であった。  
 年齢別では、10～14歳（17人）、9歳（12人）、4歳（11人）の順に多かった。  
 定点あたり報告数の多い保健所は、県南保健所（16.00）であった。



### (3) 手足口病

第49週の報告数は36人で、前週より3人少なく、定点当たりの報告数は0.82であった。  
 年齢別では、1歳（12人）、2歳（10人）、3歳（7人）の順に多かった。  
 定点当たり報告数の多い保健所は、西彼保健所（3.75）、長崎市保健所（1.10）であった。



○—○ 当年(長崎県)      — 前年(長崎県)  
 ×—× 当年(全国)      - - - 前年(全国)

## ☆上位3疾患の概要

### 【感染性胃腸炎】

第49週の報告数は132人で、前週より22人多く、定点当たりの報告数は3.00でした。地区別にみると県北地区（6.67）、県央地区（4.50）、長崎地区（3.90）は他の地区より多くなっています。例年、年末年始に報告数が増加します。今後も予防に努めましょう。

本疾患は、細菌又はウイルスなどの病原微生物による嘔吐、下痢を主症状とする感染症です。原因はノロウイルスやロタウイルス、エンテロウイルス、アデノウイルスなどのウイルス感染による場合が主流ですが、腸管出血性大腸菌などの細菌が原因となる場合もあります。手洗いの励行とともに、体調管理に注意して感染防止に努め、早めに医療機関を受診しましょう。

## 【A群溶血性レンサ球菌咽頭炎】

第49週の報告数は82人で、前週より17人多く、定点当たりの報告数は1.86でした。地区別にみると県南地区（16.0）の報告が多く、警報レベル開始基準値「8.0」を超えていますので注意が必要です。

本疾患の好発年齢は5歳から15歳で、鼻汁、唾液中のA群溶血性レンサ球菌を含む飛沫などによってヒトからヒトへ感染します。また、食品を介しての経口感染もあります。潜伏期間は約1日から4日で、突然の発熱（高熱）、咽頭痛、全身倦怠感、時に皮疹もあります。急性期患者の感染力は強いですが、適切な抗菌薬の投与により、多くは1日から2日後には症状も消失し、感染力も著しく低下します。不十分な治療は無症状保菌者を生じやすいため、早めに医療機関を受診するとともに、手洗いやうがいを励行し、感染防止に努めましょう。

## 【手足口病】

第49週の報告数は36人で、前週より3人少なく、定点当たりの報告数は0.82となりました。地区別にみると、西彼地区（3.75）、長崎地区（1.10）は他の地区より多くなっています。第43週以降、全国よりも高い値で推移していますので、今後も動向に注意しましょう。

手足口病は、口腔粘膜および四肢末端に現れる水疱性発疹を特徴とする乳幼児に多いウイルス性疾患です。感染経路は、糞口感染が主体で、飛沫感染や水疱内容液からも感染します。保護者は乳幼児に手洗い、うがいを励行させて、感染防止に努め体調管理に気をつけてあげましょう。原因ウイルスの種類によっては手足口病とともに無菌性髄膜炎や脳炎を併発させることもありますので、早目に医療機関を受診しましょう。

## ☆トピックス：感染性胃腸炎を予防しましょう

感染性胃腸炎は、例年12月以降に患者の報告数が増加します。全国、県内ともにまだ大きな流行は見られませんが、11月頃から患者数は増加傾向にあります。

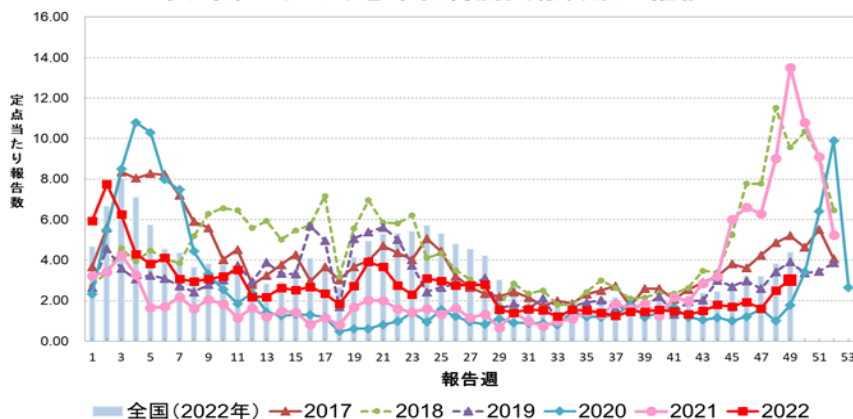
本疾患は、細菌又はウイルスなどの病原微生物による嘔吐、下痢を主症状とする感染症です。原因はノロウイルスをはじめとするカリシウイルスやロタウイルス、エンテロウイルス、アデノウイルスなどのウイルス感染による場合が主流ですが、腸管出血性大腸菌などの細菌が原因となる場合もあります。

例年冬期に患者数が増加するのがノロウイルスによる胃腸炎です。ノロウイルスの潜伏期間は1～2日で症状の持続期間は数時間～数日です。症状は他の胃腸炎ウイルスと同様に嘔気、嘔吐、下痢が主で、腹痛や発熱を認める場合もあります。乳幼児から成人に至るあらゆる年齢に感染します。

また、ノロウイルスは食中毒の原因としても検出されるウイルスです。ノロウイルスに感染した患者の手指から食品を介して感染します。

予防には、手洗いが重要です。手洗いを励行し、体調管理を行い、積極的な感染防止に努めましょう。

長崎県における感染性胃腸炎報告数の推移



## ☆トピックス：インフルエンザを予防しましょう

全国、県内ともに今シーズンの患者数の増加はまだ認められていませんが、今冬は新型コロナウイルス感染症との同時流行も懸念されていますので、早めの対策が必要です。

インフルエンザワクチンは、発症及び重症化を一定程度予防する効果があります。希望される方は、流行に備えて、ワクチンを接種しましょう。また、今後の動向に注意しながら、手洗いの励行、適切なマスクの使用など感染予防を心がけましょう。

